

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 09 月 13 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	井上 漱太

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
東京丸の内国際フォーラム / 鹿児島県霧島アート牧場
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
キッズジャンボリー2018/霧島アート牧場における赤外線カメラ搭載ドローンのテストフライト
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 8 月 13 日 ~ 平成 30 年 8 月 18 日 (6 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
1. 丸の内キッズジャンボリー2018 PWS 履修生によるアウトリーチ活動の一環として東京、丸の内国際フォーラムで開催されたキッズジャンボリーに参加した。多数の企業・団体が出展し子供達の夏休みを彩る企画である。今年は「きて、みて、さわって動物はかせになろう」と題して、様々な体験、会話を通して子供達に動物研究の世界を考えてもらうことを試みた。 私は3年連続でこの企画に参加しており、今年は「動物の社会をのぞいてみよう」というミニ講演も担当した。30分の時間のなかで、動物、特に霊長類の社会構造の比較に関して話をした。第一に感じたのは、30分間子どもの集中力を保ち続けるのは非常に難しいということ。クイズ形式でできるだけ考えてもらおうと試みたが、クイズ自体が難しいこともあり、期待通りにはうまくいかなかった。それでも、一夫一妻制だけが全てではないということは伝えられたのではないかと思う。小学校の低学年をメインに話をしたことはなかったので、良い経験になった。 ブースの運営に関しては、例年より少し難しいものが多かったような気がするが、理解できる子にとっては非常におもしろいものになったのではないかと思う。自分の説明技術も、3年連続参加ということもあり、少しは上達してきたように感じた。
2. 霧島アート牧場における赤外線カメラ搭載ドローンのテストフライト 東京から鹿児島へ移動し、霧島アート牧場にて赤外線カメラを搭載させたドローンのテストフライトをおこなった。本来 Mavic Pro に FLIR 製の赤外線カメラを取り付けることは想定されていないが、非公式のアタッチメントを購入し、カメラをつけてみた。なぜなら、ポルトガルにてメインで使用している機体が Mavic Pro であること、赤外線を検出することで、ウマの広範囲モニタリングや夜間観察の可能性が拓けるからだ。カメラを取り付けて、飛ばして見ると想像したよりはスムーズに上昇する。しかし、微弱な風にも強い影響を受けていた。Serra D' Arga の強い風のなかで、機体のバランスを保つことは難しいように感じた。フライト時間は9分ほどで、やはりバランスをとるのにかなりのエネルギーを消費しているようだった。赤外線カメラにウマは問題なく映り、夜間観察などはできそうだった。しかし、広範囲のモニタリングになると検出力の面で不安がある。課題は多いものの、ウマがいるかつドローンを飛ばしてよい、という環境で実際にテストフライトできたことは、机上で計画を練るより多くのことを教えてくれた。来年以降の調査で工夫して使用できればと思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



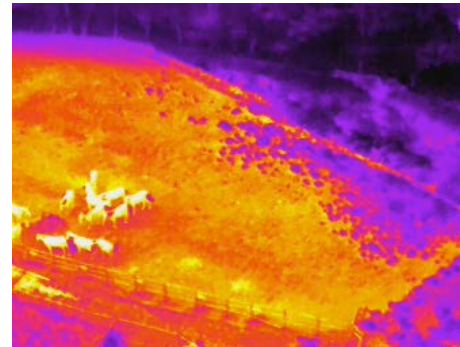
キッズジャンボリーにおけるミニ講演の様子



霧島アート牧場



赤外線カメラ搭載ドローン



ドローンにより撮影したウマ

6. その他 (特記事項など)

本出張を支援してくださいました PWS には感謝申し上げます。またキッズジャンボリーの企画準備を進めていただいた皆様、霧島アート牧場の皆様にも重ねて感謝いたします。